図説 日本の古典 11

太平記

図説日本の古典

第1巻／古事記	武蔵大学教授 神田秀夫	奈良国立文化財研究所長 坪井清足	学習院大学教授 黛 弘道
第2巻／萬葉集	筑波大学教授 伊藤 博	成城大学教授 上原 和	学習院大学教授 黛 弘道
第3巻／日本霊異記	琉球大学教授 小島瓔禮	文化庁 上原昭一	東京大学助教授 笹山晴生
第4巻／古今集・新古今集	東京大学助教授 久保田 淳	美術史家 白畑よし	聖心女子大学教授 目崎徳衛
第5巻／竹取物語・伊勢物語	大阪女子大学教授 片桐洋一	大谷女子大学教授 伊藤敏子	聖心女子大学教授 目崎徳衛
第6巻／蜻蛉日記・枕草子	学習院大学教授 木村正中	美術史家 白畑よし	東京大学教授 土田直鎮
第7巻／源氏物語	東京大学教授 秋山 虔	学習院大学教授 秋山光和	東京大学教授 土田直鎮
第8巻／今昔物語	早稲田大学教授 国東文麿	美術史家 梅津次郎	京都女子大学教授 村井康彦
第9巻／平家物語	神戸大学名誉教授 永積安明	大阪大学教授 武田恒夫	京都大学教授 上横手雅敬
第10巻／方丈記・徒然草	お茶の水女子大学教授 三木紀人	東京国立文化財研究所 宮 次男	東京大学教授 益田 宗
第11巻／太平記	早稲田大学教授 梶原正昭	東京国立文化財研究所 宮 次男	京都大学教授 上横手雅敬
第12巻／能・狂言	東京大学教授 小山弘志	京都国立博物館 切畑 健	大阪市立大学名誉教授 原田伴彦
第13巻／御伽草子	国文学研究資料館長 市古貞次	美術史家 高崎富士彦	東北大学名誉教授 豊田 武
第14巻／芭蕉・蕪村	福岡大学教授 白石悌三	文化庁 佐々木丞平	学習院大学名誉教授 児玉幸多
第15巻／井原西鶴	埼玉大学教授 長谷川 強	東京大学名誉教授 山根有三	学習院大学名誉教授 児玉幸多
第16巻／近松門左衛門	学習院大学教授 諏訪春雄	大阪大学助教授 信多純一	横浜市立大学教授 辻 達也
第17巻／上田秋成	国文学研究資料館教授 松田 修	名古屋大学助教授 河野元昭	学習院大学教授 大石慎三郎
第18巻／京伝・一九・春水	早稲田大学教授 神保五弥	東京国立博物館 小林 忠	立正大学教授 北原 進
第19巻／曲亭馬琴	明治大学教授 水野 稔	国立国会図書館 鈴木重三	東京学芸大学教授 竹内 誠
第20巻／歌舞伎十八番	早稲田大学教授 郡司正勝	東京国立博物館 小林 忠	成城大学教授 西山松之助

図説 日本の古典11 太平記
昭和55年7月20日 第1刷印刷
昭和55年8月9日 第1刷発行
著者代表――梶原正昭 ©1980
発行者――堀内末男
発行所――株式会社 集英社
東京都千代田区一ツ橋2-5-10
電話－販売部 東京(03)238－2781
出版部 東京(03)230－6381
振替－15653／郵便番号101

印刷所――大日本印刷株式会社
用紙――王子製紙株式会社
製本――中央精版印刷株式会社
文勇堂製本工業株式会社

製本には十分注意していますが，落丁・乱丁の際は
おとりかえいたします。
0391-167011-3041
Printed in Japan

太平記

図説日本の古典—11

〈企画委員〉
東京大学教授　秋山　虔
国文学研究資料館長　市古貞次
学習院大学名誉教授　児玉幸多
早稲田大学教授　神保五弥
東京大学名誉教授　山根有三

〈第一巻・編集委員〉
早稲田大学教授　梶原正昭
東京国立文化財研究所　宮　次男
京都大学教授　上横手雅敬

集英社

目次

◉カラー図版◉『後醍醐天皇御像』／隠岐／『秋夜長物語絵巻』／伝楠公奉納黒韋威矢筈札胴丸／『名和長年像』／『騎馬武者像』／『宝積経要品』紙背和歌短冊／吉野／『夢窓疎石像』／天竜寺庭園／玄玖本『太平記』／西源院本『太平記』／前田本『太平記』／慶長八年古活字本『太平記』／天正本『太平記』

◉図版特集◉

『太平記』の武具　広井雄一……20

白糸威褄取鎧／黒韋威肩白腹巻／白糸威褄取鎧／白糸威肩赤胴丸／熏韋包腹巻／黄熏韋威膝鎧／藍韋威腹巻／太刀　銘一〈道誉一文字〉／太刀〈小竜景光〉／兵庫鎖太刀／黒漆銀銅蛭巻太刀／梨子地桐文螺鈿腰刀

動乱から生まれた軍記『太平記』　梶原正昭……28

『太平記』の特質　『太平記』の成立

『太平記』―作品紹介　梶原正昭……38

討幕の密謀　天皇ご謀反　隠岐遷幸　不屈な戦い　北条滅亡　新政の破綻　新田・足利の対立　湊川の決戦　南朝の衰退　武家方の内紛

自由狼藉の世界　桜井好朗……92

自由狼藉と笑い　下剋上の社会

建武の新政　上横手雅敬……100

鎌倉幕府の滅亡　新政とその挫折

◉図版特集◉

『十二類合戦絵巻』―『獣太平記』　宮　次男……109

天の徳と地の道―宋学と政道思想　増田　欣……124

士大夫の道　治世の書　宮廷の学風と宋学

楠木正成とその周辺　上横手雅敬……132

正成の出自　正成の足跡　『太平記』の正成

◉図版特集◉
足利尊氏の生涯　上横手雅敬……141
足利尊氏木像／『足利義兼画像』／伝足利貞氏墓／足利氏宅跡／篠村八幡宮／浄土寺本堂／教王護国寺〈東寺〉東大門／『夢窓国師画像』／法観寺五重塔／天竜寺
新しい人間像の探究—南北朝の絵画　宮　次男……148
絵巻にみる人間像　肖像画の人間像
◉図版特集◉
転換期の生活文化　菅原壽雄……157
『慕帰絵詞』／『柿本人麿像』／『菟玖波集』／曜変天目茶碗／松屋肩衝茶入／『祭礼草紙』
因果業報—「未来記」と政道談義　梶原正昭……164
四天王寺「未来記」　雲景の「未来記」　北野通夜物語
稚児の絵巻　宮　次男……172
『太平記』の時代と稚児　稚児絵巻の展開
◉図版特集◉
禅の美術　菅原壽雄……181
永保寺庭園／円覚寺開山堂内部／竜吟庵方丈／安楽寺八角三重塔／『寂室元光墨跡』／『竺仙梵僊墨跡』／夢窓疎石木像／『宗峰妙超像』／『夏景山水図』／『竹雀図』／『羅漢図』
室町政権の形成　上横手雅敬……188
南朝と北朝　幕府の内紛　幕府体制の安定化
『太平記』読みから講釈へ　梶原正昭……200
物語僧と『太平記』読み　町講釈の広がり
『太平記』関係系図　上横手雅敬……209
『太平記』人物事典　白崎祥一……210
『太平記』年表　白崎祥一……212
『太平記』合戦地図　上横手雅敬……214
南北朝時代の武具図　広井雄一……215

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

凡例

1　古典文学の珠玉の名作を立体的に構成した本シリーズでは、その内容をさらに意義づけるため、その部分の執筆者が各図版の解説にあたったが、それ以外の場合は、とくに解説の末尾に氏名を付記した。

2　本巻の仮名づかいは、原則として現代仮名づかいによった。古文の引用については、歴史的仮名づかいを原則としたが、必要に応じ原本通りとした部分もある。特殊な美術・歴史用語の引用などについては原本通りとした。

3　南北両朝の年号の表記については、北朝年号を表記し、カッコ内に南朝年号と西暦を入れることを原則とした。ただし、南朝を主とした記述の個所では、南朝年号を表記し、カッコ内に西暦、または、北朝年号と西暦を入れたところもある。

4　参考文献を各部分の章末に一括して注記し、読者の便をはかった。

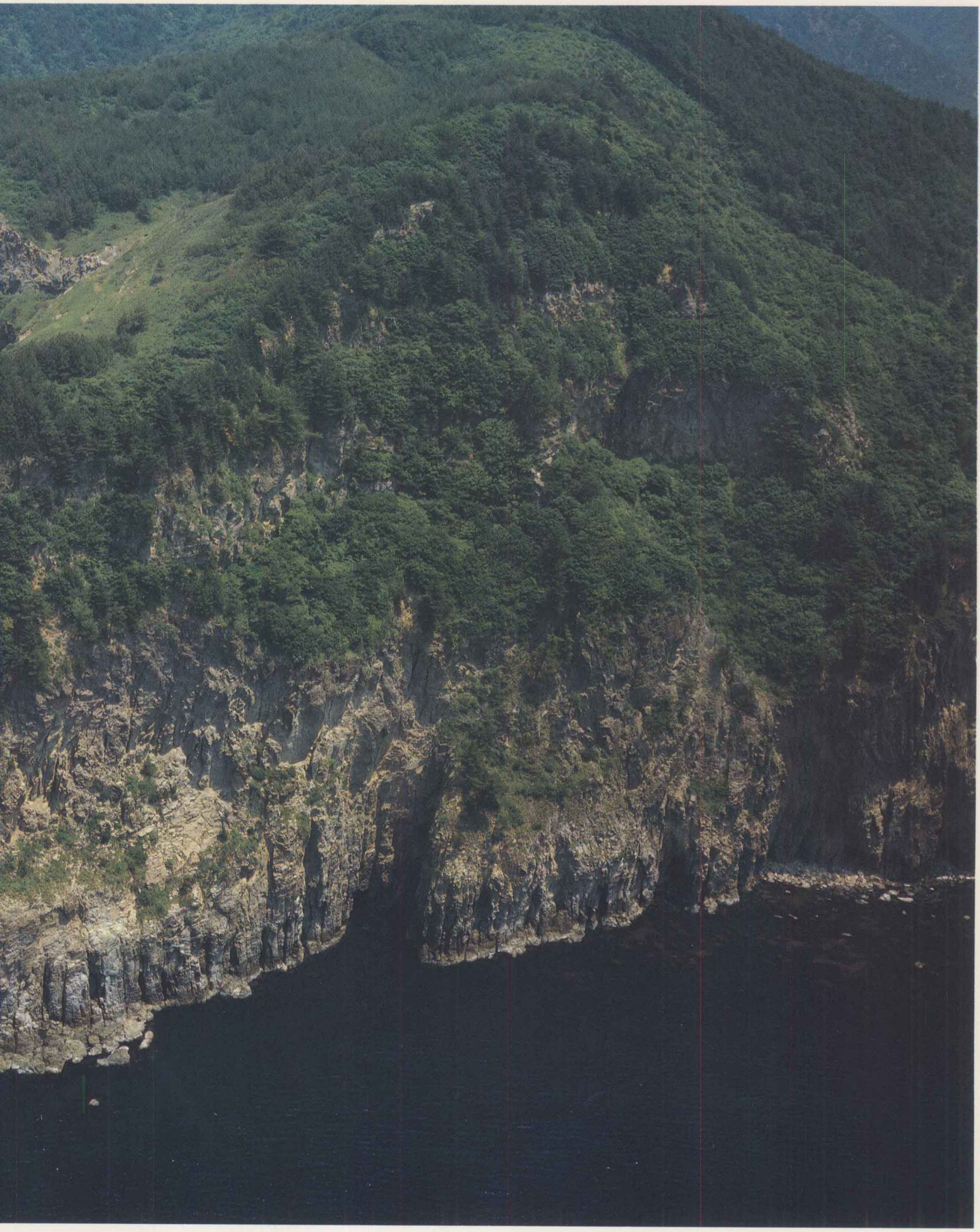
5　各図版に添記した国宝・重文・史跡のうち、重文は重要文化財、史跡は国指定史跡の略である。なお、個人所蔵者名は略させていただいた。

6　本巻の図版写真および資料の収集にあたっては、その所蔵者・管理者・提供者・撮影者など、関係者各位のご好意とご協力を賜った。

〈第一一巻・執筆者〉
京都大学教授――上横手雅敬
東京国立文化財研究所――宮　次男
早稲田大学教授――梶原正昭
文化庁――広井雄一
椙山女学園大学短期大学部教授――桜井好朗
広島女子大学教授――増田　欣
根津美術館次長――菅原壽雄
早稲田大学大学院――白崎祥一

〈装幀〉
後藤市三
〈レイアウト〉
宇喜多邦嘉
樋口英男

1『後醍醐天皇御像』——後醍醐天皇(1288〜1339)は真言密教の信仰が篤く，真言密教は天皇に対する有力な支持勢力の一つであった。本図は冠・袈裟(けさ)を着用し，左右の手に五鈷杵(ごこしょ)・五鈷鈴の法具を持ち，真言密教の灌頂(かんじょう)を受ける姿に描かれており，灌頂の御影(みえい)とよばれる。頭上には天照皇大神を中心に，八幡大菩薩・春日大明神の三社の神号が書かれている。本図の御像は，文観(もんかん)から杲尊法親王を経て，清浄光寺(しょうじょうこうじ)12代尊観法親王に伝えられたものという。南北朝時代。絹本着色。1幅。縦93.9cm　横30.9cm／神奈川県・清浄光寺



2

2　**隠岐**――承久の昔，後鳥羽上皇は鎌倉幕府打倒を企てたが敗れ，承久3年(1221)隠岐に流されたが，在島18年の末，この地で没した。しかし元弘2年(1332)，再度幕府打倒をはかってここに流された後醍醐天皇は，1年足らずで脱出し，やがて幕府を滅ぼした。隠岐は島前(西ノ島・中ノ島・知夫里島)と，その北島の大島である島後とから成り，後醍醐天皇の行在所(あんざいしょ)は島後の国分寺にあったとされるが，西ノ島にも伝説地がある。島根県隠岐郡。

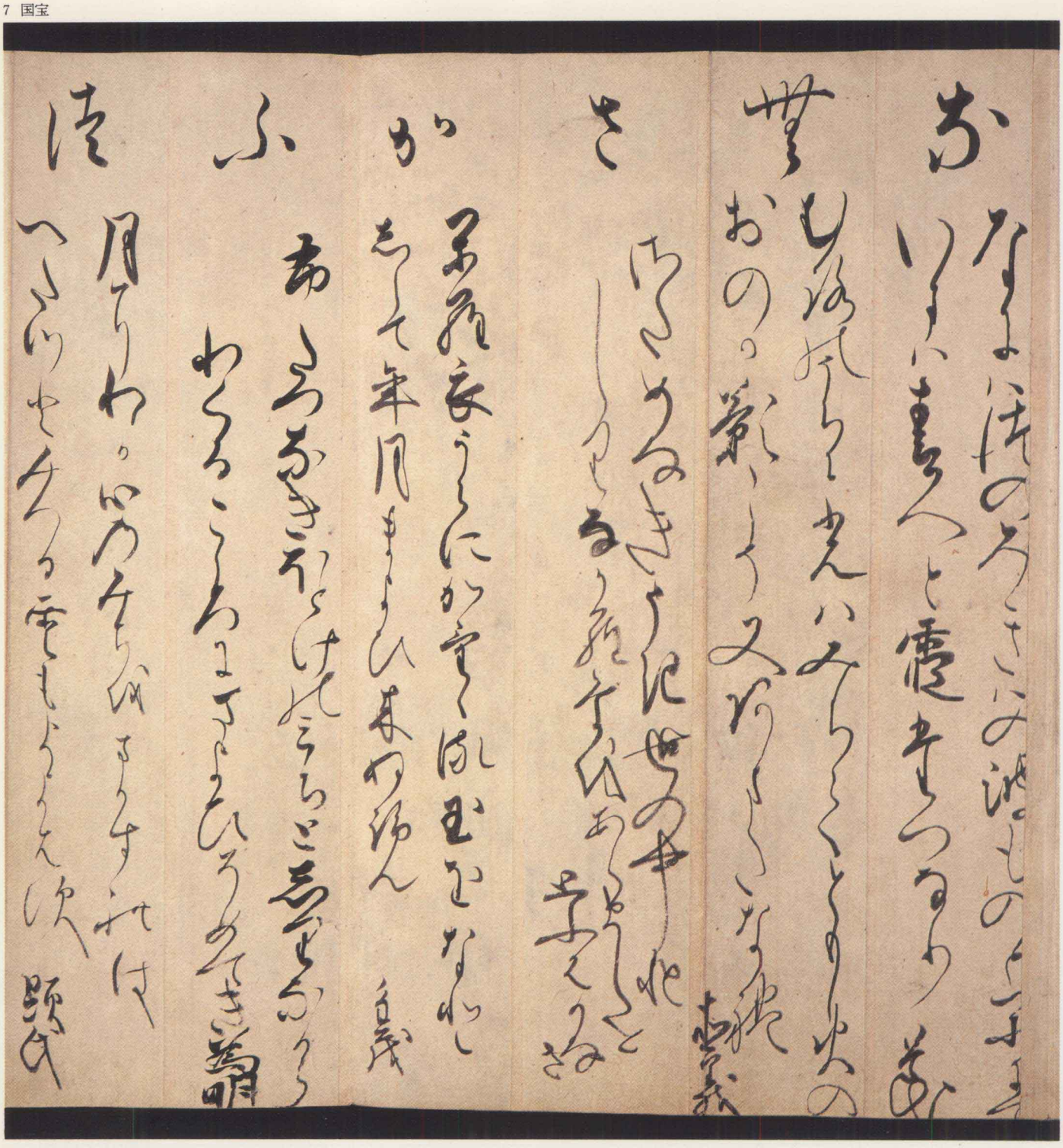
3　山門と寺門の合戦〈『秋夜長物語絵巻』中巻部分〉——三井寺の稚児梅若が，比叡山の桂海律師を慕って家出したのが原因で，山門と寺門のあいだがけわしくなり，三井寺は戒壇を建てることによって叡山に対抗した。山門はこれを破壊すべく僧兵を出し，三井寺を焼き討ちした。僧兵らの着用する甲冑は，いずれも当世風のもので，山城を打ち破り徒歩戦が展開する。南北朝時代。紙本着色。3巻。縦30.9cm／大阪府・幸節静彦氏蔵

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

4　伝楠公奉納黒韋威矢筈札胴丸――胴丸はもと徒歩の下級武士が用いた鎧であるが，南北朝時代にはこの身軽に活動できる鎧に大袖を着け，上級武士も着用するようになった。兜は鉄の24間の筋兜で，正面眉庇(まびさし)に鍍金(ときん)の鍬形台に幅広で短い鍬形を打つ。鎧の胸には，左右に一対の杏葉(ぎょうよう)をつけ，大袖は七段で，草摺(くさずり)は八間五段下りとなっている。社伝では楠木正成(？～1336)奉納という。南北朝時代。1領。胴高64.0cm／奈良県・春日大社

5　『名和長年像』〈長谷川信春筆〉――楠木正成とともに後醍醐天皇を援助した名和長年(なわながとし＝？～1336)の画像で，桃山時代の画家長谷川等伯(信春)が，若年の時に描いたもの。上畳(あげだたみ)に太刀を脇に坐し，その前には愛馬を引き出す家臣が，小さく示されている。像主の偉大さを，この小さな家臣と対照して表現しようとするものであろう。歴史的肖像画としても，ユニークな作品である。桃山時代。絹本着色。1幅。縦82.4cm　横39.0cm／東京国立博物館

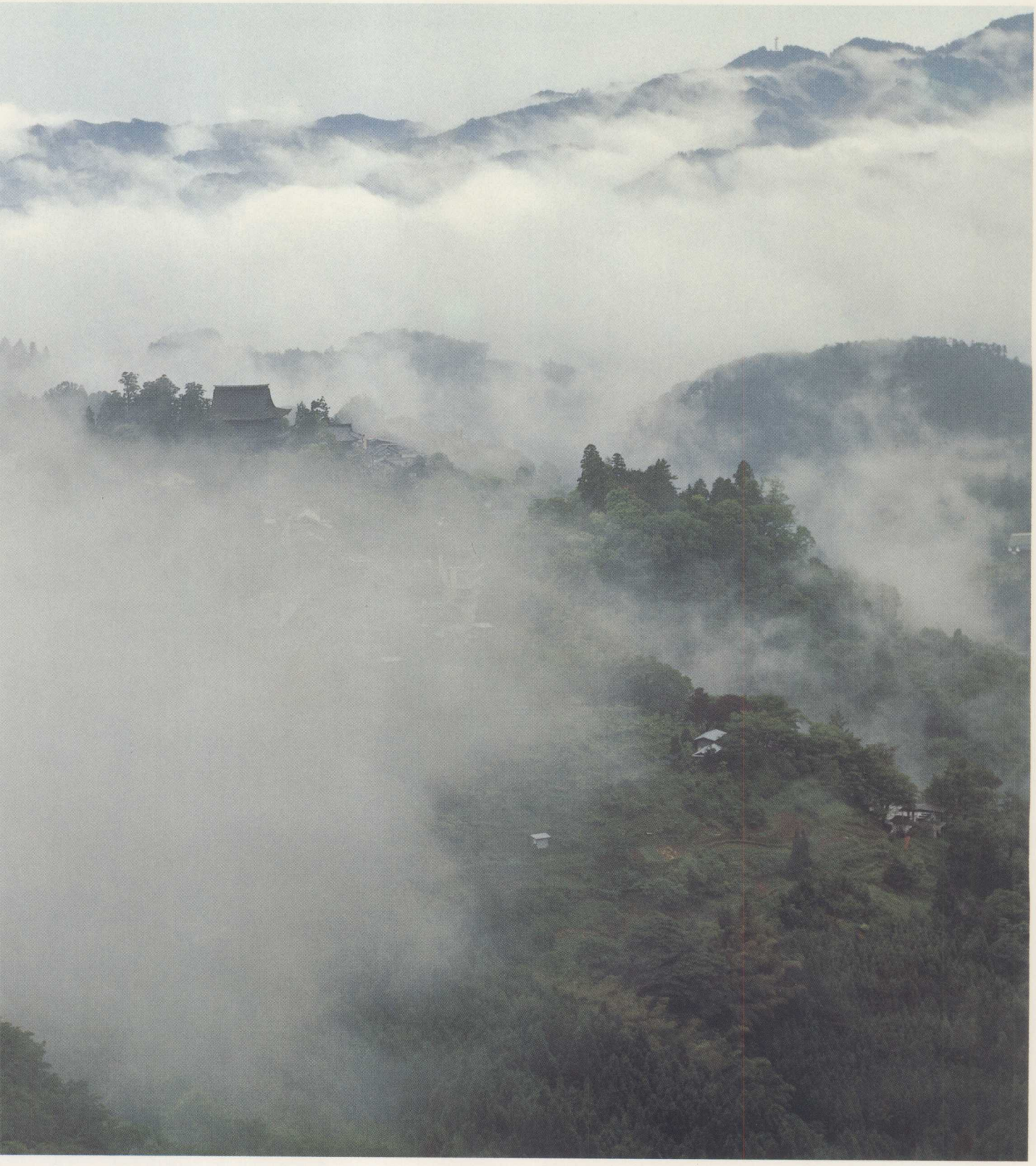
6『**騎馬武者像**』――上部の花押(かおう)は，2代将軍足利義詮(よしあきら＝1330～67)のものであり，江戸時代中期の『集古十種』以来，本図は足利尊氏(1305～58＝義詮の父)の出陣影とされてきたが確証はない。出陣影は武将の晴れの出陣の姿を描くのが普通であるが，本図の武将は兜もかぶらず，抜刀のまま馬にまたがり，鎧には折れた矢が刺さっているなど，激戦のあとの姿を描いたものとして特異である。南北朝時代。絹本着色。1幅。縦100.3cm　横53.3cm



『宝積経要品』紙背和歌短冊・釈文

な　なにハづのみぎハの波ものどかにて　〔足利〕尊氏
　　いまハ春へと霞たつなり
む　むろのうちに光ハみちてともし火の
　　おのが影こそ又あまたなれ　〔足利〕直義
さ　さだめなきうき世の中と
　　しりながらなをあらましを
　　思ふはかなさ
か　から衣うらにかけゝる玉をなど　〔高〕重茂
　　しらで年月まよひ来ぬ覧
ふ　ふたつなきほとけのミちとしりながら
　　わくるこゝろにまよひそめてき　〔御子左〕為明
つ　月ぞわが心のみちをまかすれば
　　へだつとみつる雲もまよはず　〔細川〕顕氏

7　『宝積経要品』紙背和歌短冊――ある人の霊夢によって，足利直義(ただよし＝1306～52)は20余人の人々に，「なむさかふつせむしむさり(南無釈迦仏全身舎利)」の文字を冠した和歌を請い，120首となったのでこれを1軸に仕立てたが，康永3年(興国5年＝1344)その紙背に『宝積経要品(ほうじゃくきょうようほん)』を書写し，高野山金剛三昧院(こんごうざんまいいん)に納めた。本図は和歌短冊の一部で，尊氏・直義兄弟の詠歌からはじまる最初の部分。作者名を欠く第3首は，光明天皇の作であろう。南北朝時代。折本装。縦31.5cm　横10.6cm／東京都・前田育徳会尊経閣文庫



8　**吉野**――元弘2年(1332)，護良(もりなが)親王(1308～35)は吉野に拠って鎌倉幕府軍と戦った。3か月余で吉野は陥ちたが，幕府打倒ははたされ，建武中興(新政)となった。しかしやがて中興も敗れ，建武3年(延元元年＝1336)，後醍醐天皇は吉野に脱出，南朝をはじめ，この地で没した。吉野朝廷とはいっても，正平3年(1348)には高師直に襲われ，賀名生(あのう)に移ってしまう。のち吉野山にもどったこともあるが，広義では賀名生などをも含めて吉野とよんだようだ。奈良県吉野郡。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com